



### プロサッカーチームが合宿

「モンテディオ山形」が1月16日から28日にかけて、御前崎ネクスタフィールドで8回目となるトレーニングキャンプを実施しました。

歓迎式では、相田健太郎代表取締役社長が「J1昇格を目指し、この素晴らしいグラウンドで練習に励みます」と決意を述べました。1月29日から2月11日にかけては「福島ユナイテッドFC」が合宿を実施しました。

◀柳澤市長から記念品の目録を受け取る後藤雅明選手



### 横断歩道を安全に渡ります

交通安全指導員から道路の正しい歩き方などを学ぶ教室が1月19日、さくらこども園で開かれました。

同園の年少児から年長児は、それぞれの年齢に合わせた交通ルールを学習。4月から小学生になり、子どもだけで歩いて登校する年長児は、実際に園から浜岡東小学校までを歩いてみました。同教室は1月から2月にかけて、市内全園で実施されました。

◀横断歩道を安全に渡る練習をする園児



### 生徒や住民の思いを込めて

浜岡中学校は1月24日、能登半島地震の被災者を支援する義援金16万5,418円を市社会福祉協議会を通じて寄付しました。

募金活動は生徒会本部と福祉委員会を中心に実施。同本部役員の植木朱音さん(佐倉三区)と同委員会の戸塚凜委員長(早苗町)は「被災者を思う気持ちが込められた義援金を大切に役立ててほしい」と話しました。

◀同協議会の繁田昇会長に義援金を手渡す朱音さんと凜さん



### 被災地の復興を支えるため

御前崎ライオンズクラブの植田浩行会長らが1月26日に市役所を訪問し、市と災害協定を結ぶ石川県志賀町への義援金10万円を柳澤市長に手渡しました。

義援金は同クラブの会員51人の会費から捻出されました。西島正浩第2副会長と宮城秀幸第3副会長も同席し、3人は「辛い状況が続く被災地の復興の支えになれば」と柳澤市長に託しました。

◀柳澤市長は「志賀町にしっかりとお届けします」と預かりました



### 季節の和菓子づくりを体験

比木地区センターが主催するふれんど講座の和菓子づくりが2月2日に開催されました。

講師を務めたのは、葛川屋の伊藤正人さん(本町)。10人の参加者は、イチゴ大福や桜餅のほか、節分やバレンタインデーをモチーフにした練り切りなどを作りました。高畑京子さん(比木原)は「カラフルで可愛い和菓子を作れて大満足」と笑顔を見せました。

◀コツを教えてもらいながら和菓子づくりを楽しむ参加者



### よしもと芸人とコラボ企画

市はスマートフォンの使い方を楽しく学んでもらおうと吉本興業所属の静岡県住みます芸人・さこりッチ氏を講師にスマートフォン教室を1月19日から2月5日にかけて市内で4回開催しました。

さこりッチ氏は巧みな話術で笑いを交えながら、市のxIDアプリを活用したデジタル通知の仕組みやLINE、地図アプリなどスマートフォンの便利な機能を紹介しました。

◀さこりッチ氏に使い方を学ぶ参加者



### カインズと災害時協定締結

市と株式会社カインズは2月6日、「災害時における生活物資の供給協力に関する協定」を締結しました。

これにより、市は災害時に家庭や避難所で必要な生活物資などの供給を同社へ要請することができるようになります。同社理事開発本部の川崎崇副本部長は「災害がいつ発生しても、物資をすぐに届けられるように体制を整えておきたい」と話しました。

◀協定書にサインする柳澤市長と川崎副本部長



### 地域発展に向けた協定締結

バレーボールVリーグ女子2部に所属し、浜松市を拠点に活動する「一般社団法人プレス浜松」と市が2月13日、スポーツ振興に関する協定を締結しました。

今後、市民を対象とした健康増進活動や市内学校でのバレーボール教室の開催など、地域活性化に向けて取り組みます。同法人の森島康之代表理事は「地域の皆さんと共に歩んでいきたい」と話しました。

◀柳澤市長は「スポーツで市民を笑顔にしてください」と話しました